# はまなし

鶴岡市立西郷小学校　学校だより
令和５年度 第３号（2023．５．２４発行）
～地域・家庭とともにある西郷小学校～

## 異学年交流 最高の滑り出し!

★ 6年生の自覚・リーダーシップ
★ はまなし班 活動開始
★ 機会をとらえた実践

西郷小学校では「異学年交流」に力を入れています。理由は今後本校が直面する「少子化問題・複式学級問題」への対応策と考えているからです。児童数減によって縮小してしまうコミュニケーション活動を「異学年交流」で補い、憧れと思いやりが通い合う学校を創っていくためです。これから年度始めの滑り出しの様子を紹介させていただきます。

最高のスタートです！それは６年生のリーダーシップのおかげです。「学校の顔」であることを自覚し、児童会、登校班、はまなし班等の様々な場面で力強く下級生を支えてくれています。例えば登校時、ある班では長い距離を歩くのに疲れてしまった１年生のために、登校班長がその子のランドセルを持ち、副班長がその子の手を引いて歩いてくれています。それに、毎朝１年生の朝の活動に進んで顔を出し、勉強道具の整理等をサポートしています。先日は６年生全員が日替わりで、１年生に「絵本の読み聞かせ」もしてくれました。本当に頼りになる心優しいリーダーです。その様子は、まるで西郷小に明るさ・温かさを届けてくれる太陽のようです。

はまなし班（１～６年の縦割り班）の活動も始まり、「１年生を迎える会」でのゲーム、毎日の清掃と、こちらでも高学年のリードが見られます。先日も２年生が１年生に校内を案内する学校探検、体力テストでも「異学年交流」が行われました。これからも機会を捉え、方法を工夫して異学年交流を積極的・計画的に展開してまいります。また年度内には、にしごう保育園・ひばり保育園との架け橋プログラムの実践（保小連携）、第５ブロックにおける小中一貫教育の構想検討（小中連携）と、学校の枠を超えた「異学年交流」にも取り組んでいく予定です。

## 「挑戦する子」を育てるために

■西郷小では今年度も3つの「めざす子どもの姿」の育成に取り組んでまいります。ここでは、そのうちの「挑戦する子」を育てる手立てについて、紹介したいと考えています。

■まずは「挑戦」を価値付けることです。集会で「四つ葉のクローバー」の話をしました。朝、登校した子たちが、四つ葉のクローバーをプレゼントしてくれるからです。四つ葉のクローバーは人のよく通る所で見つかります。それは四つ葉になる理由と関係があります。春から夏にかけて茎の先に葉っぱの赤ちゃん（原基：げんき）が育ちますが、葉が3枚に分かれる時に踏まれる等して傷がつくと4つに分かれ、四つ葉になるのです。つまりピンチに負けないでたくましく育った証が四つ葉なのです。四つ葉のクローバーは挑戦の大切さを教えてくれているのかもしれません。（5／10 全校集会にて）

■次に「挑戦」の機会を設けることです。今年度、「かんガエル＝楽C！（読み：かんがえるってたのしい）」という取り組みを始めました。思考力を試す問題に希望者が進んで挑戦するものです。①挑戦する心を育てるだけでなく、②論理的・応用的な思考力を養う、③考えることを楽しむ……という一石三鳥をねらった欲張りな実践です。これまで3回出題しましたが、「逆に子どもたちの方から出題される」という予期せぬ楽しい展開もあり、こちらの方こそ楽しませてもらっています。この他にも本校では、新しいことや今までできなかったことに挑んだり、あきらめないでがんばったりする機会を大切にして、「挑戦する子」の育成に努めてまいります。